

経済・金融 フラッシュ

鉱工業生産 09年7月 ～生産の回復傾向が継続

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

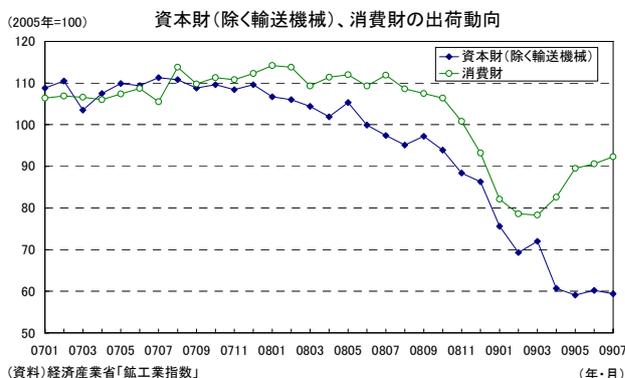
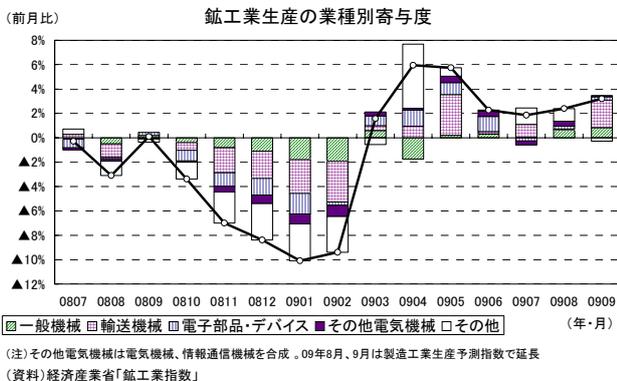
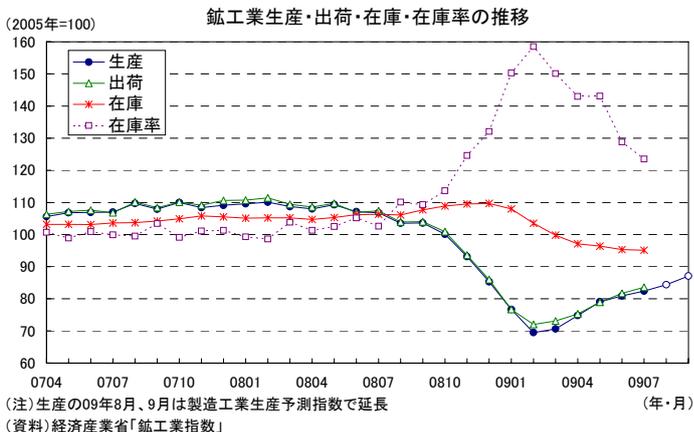
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 生産は5ヵ月連続の上昇

経済産業省が8月31日に公表した鉱工業指数によると、7月の鉱工業生産指数は前月比1.9%と5ヵ月連続で上昇し、事前の市場予想（ロイター集計：前月比1.4%、当社予想は同1.7%）を上回った。出荷指数は前月比2.3%と5ヵ月連続の上昇、在庫指数は前月比▲0.2%と7ヵ月連続の低下となった。在庫率指数は前月比▲4.1%の低下となった。鉱工業生産は4月、5月に前月比で5%台の高い伸びとなった後、6月（2.3%）、7月（1.9%）と勢いはやや鈍っているが、回復傾向は継続している。

7月の生産を業種別に見ると、輸出の持ち直しを背景に輸送機械が前月比6.9%、鉄鋼が同6.5%の高い伸びとなったが、在庫調整の進展に伴い大幅増産が続いていた情報通信機械、電子部品・デバイスがそれぞれ前月比▲8.1%、同▲2.5%と5ヵ月ぶりに低下した。

速報段階で公表される16業種中、11業種が前月比で上昇、5業種が低下となった。



財別の出荷動向を見ると、設備投資の一致指標である資本財出荷（除く輸送機械）は1-3月期が前期比▲19.2%、4-6月期が同▲17.0%と急速な落ち込みが続いた後、7月は前月比▲1.3%となっ

た。4-6月期の設備投資（GDP統計）は前期比▲4.3%と5四半期連続の減少となったが、7-9月期も引き続き低調な動きが予想される。

一方、消費財出荷指数は1-3月期が前期比▲20.4%、4-6月期が同9.9%となった後、7月は前月比1.9%の上昇となった。ただし、旅行、外食などのサービス消費は、雇用・所得環境の悪化を背景にこのところ弱めの動きとなっている。エコカー減税・補助金、エコポイント制度といった政策効果に支えられて、4-6月期の民間消費（GDP統計）は前期比0.8%と3四半期ぶりの増加となったが、7-9月期は伸びが大きく鈍化する可能性が高いだろう。

2. 7-9月期も比較的高めの伸びに

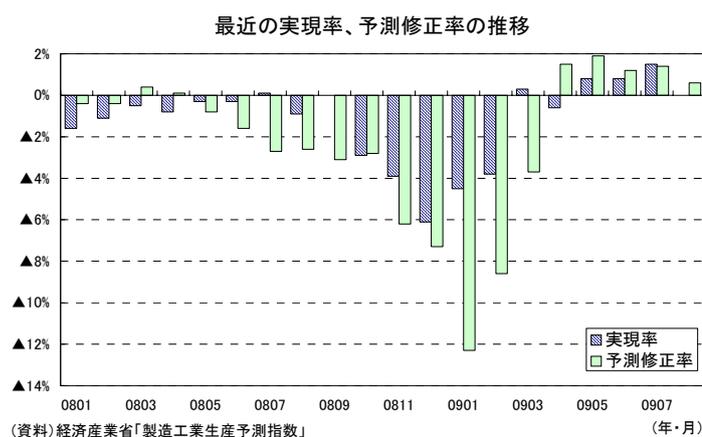
製造工業生産予測指数は、8月が前月比2.4%、9月が同3.2%となった。生産計画の修正状況を示す実現率（7月）、予測修正率（8月）はそれぞれ+1.5%、+0.6%となった。実現率は3ヵ月連続、予測修正率は5ヵ月連続でプラスとなっており、企業の生産計画が上方修正される傾向が続いている。

予測指数を業種別に見ると、輸送機械は8月には前月比0.4%とほぼ横ばいに

とどまるものの、9月は同14.2%と大幅増産が計画されているほか、設備投資の落ち込みを反映し低迷が続いてきた一般機械が8月（前月比7.3%）、9月（同8.9%）ともに高い伸びとなっている。また、5ヵ月ぶりに減少した情報通信機械（8月：前月比6.5%、9月：同1.7%）、電子部品・デバイス（8月：前月比2.3%、9月：同2.8%）は再び増加に転じる見込みとなっている。

なお、輸送機械の生産は、9月までの生産計画が実現したとすると、最悪期の2月に比べ7割以上の増産となる。ただし、金融危機前の水準に比べると8割程度にとどまっている。

7月の生産指数を8月、9月の予測指数で先延ばしすると、7-9月期の生産指数は前期比8.1%の上昇となる。鉱工業生産が2四半期連続で増加することはほぼ確実で、4-6月期の前期比8.3%に続き比較的高めの伸びとなる可能性が高いだろう。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。